

2024年3月29日(金) 午前 口頭発表

	A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白樺1)	D会場(白樺2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室3)		
9:00	A-01○伊藤 貴太1、関口 貴大1、笠井 征希1、林 直孝1(1.OATアグリオ(株)) タバココナジラミに対するサポオイル剤の殺卵メカニズム	B-01○武藤 将道1、2、町田 龍一郎3(1.名城大・農、2.福島大・理工、3.筑波大・管平) コジマイシノミとは何か? : 内田一博士により記載された海岸性イシノミ <i>Halomachilis</i> の分類学的再検討に向けて (昆虫綱・イシノミ目・イシノミ科)	C-01○城塚 可奈子1(1.大阪環水研) 施設キュウリおよび施設内外雑草に生息するミナミキイロアザミウマの発生消長	D-01○藤本 巧輝1、渡利 高大1、村上 祐貴2、幡本 将史1、熱海 良輔2、山口 隆司1(1.長岡技術科学大学、2.長岡工業高等専門学校) アメリカズアブを用いた酒粕処理モデルの構築			G-01○Faten Abdelsalam Hamdi, Abdelsalam 1, Takeshi Suzuki 2(1.Post doctor, 2.Professor (Associate)) Effect of colloidal silica nanoparticles on survival and fecundity of the two-spotted spider mite, <i>Tetranychus urticae</i> Koch	9:00	
9:15	A-02○森戸 梓1、加嶋 崇之1、森 光太郎1、佐野 真喜子1(1.石原産業株式会社) ベミデタッチ®(アセチル化グリセリド乳剤)は薬剤抵抗性を発達させにくいのか?	B-02○富永 豪太1、中村 剛之2(1.岩手連大、2.弘前大・白神センター) 日本産チャノハネメカゲロウ属 <i>Micromus</i> (アミメカゲロウ目、ヒメカゲロウ科)に関する新知見	C-02○安達 修平1、富高 保弘1(1.農研機構・植防研) 国内のキュウリに感染する9種ウイルスを判別可能なマルチプレックスRT-PCR法	D-02○藤田 弥佳1、安田 哲也1、霧田 政美2、小林 徹也1(1.農研機構、2.東京大学) 鶏糞を飼料としたアメリカズアブ幼虫飼育			G-02○杉本 晃一1、小嶋 篤史2、マーシャル ショーン3、ムーア アーリー4、山内 麻裕歩1、仲井 まどか1(1.東京農工大学、2.鳥と小動物の病院リトルバード / リトルバードラボ、3.アグリサーチ、4.グアム大学) Establishment of an oral inoculation method for <i>Oryctes rhinoceros</i> larvae and gross-pathology of nudivirus infection.	9:15	
9:30	A-03○高安 範1、森戸 梓1、佐竹 良和1、加嶋 崇之1、森 光太郎1、佐野 真喜子1(1.石原産業株式会社) ベミデタッチ®(アセチル化グリセリド乳剤)と既存化学農薬との混用処理でのチャノドリヒメコバヤイに対する防除効果	B-03○朴 鎮亨1、屋宜 禎央1、広渡 俊哉1(1.九州大学 昆虫学研究室) ヒメツマオレガ <i>Dryadula epischista</i> (ヒロズコガ上科・マヒロズコガ科)に外観が類似した未記載種	C-03○一志 貴斗1、小原 慎司1、手塚 俊行1(1.株式会社アグリ総研) タバコカスミカミに対する農薬の残効性評価方法の開発	D-03○小林 徹也1、藤田 弥佳1、劉 家銘1、武田 晃司1(1.農研機構) 日本の冬期におけるアメリカズアブ飼育の問題点と改善法				G-03○飯田 愛実1、加藤 亜記1、太田 伸二1、大村 尚1(1.広島大院・統合生命) Nematicoid activity of diterpenoids from algae of the genus <i>Dictyota</i> against <i>Aphelenchoides besseyi</i>	9:30
9:45	A-04○萬屋 宏1(1.農研機構 植物防疫研究部門 金谷茶業研究拠点) アセチル化グリセリドによるチャノドリヒメコバヤイの行動制御	B-04○澤田 昌恭1、吉澤 和徳1、大島 一正2(1.北大・農・昆虫体系、2.京都府大・院生命環境) トキノキを利用する <i>Cameraria</i> 属(鱗翅目: ホソガ科) 1未記載種および同属内でのムクロジ科植物利用の進化的背景に関する研究	C-04○喜久村 智子1、興儀 喜代政1(1.沖縄農研究センター) 沖縄の露地キクにおける土着天敵利用の可能性	D-04○大澤 英輝1、伊藤 健司1、手塚 俊行1(1.株式会社アグリ総研) クロマルハナバチ雄成虫粉末を用いたコロロギ飼育				G-04○LEM Ming Siang1, Nakano Ryo2, Nomura Masashi1(1.Chiba University, 2.NARO Institute) Behavioral response ultrasonic irradiation in simulated flight and oviposition of cabbage looper moth	9:45
10:00	A-05○坂巻 祥孝1、鈴木 智久2、野邊 勝郎3、吉田 光4(1.鹿児島大学・農学部、2.カワサキ機工株式会社、3.鹿児島県農業開発総合センター、4.株式会社 伊藤園) 蒸気防除がチャノドリヒメコバヤイ等へ与える影響(2年目)	B-05○荒島 弾1、屋宜 禎央2、広渡 俊哉2、外村 俊輔3、奥 耐平(1.九大院・生資環・昆虫、2.九大院・農・昆虫、3.徳島県立博物館) 宮野(2022)で報告されたハビロキバガ亜科(チョウ目: エグリキバガ科)3種の分類学的研究	C-05○高田 裕司1(1.長崎県農林技術開発センター) ミヤコカブリダニが好むイチゴ株内の生息部位	D-05○酒井 麻衣1、大原 裕也1、小林 公子1(1.静岡大院・食) ミズアブミールの加熱処理がゼブラフィッシュの摂餌行動と発育に及ぼす影響				G-05○勝野 智也1、世古 智一1、勾坂 晶1、村上 理都子1(1.農研機構・植防研) Further improvement of <i>Orius strigicollis</i> with extended giving-up time	10:00
10:15	A-06○角田 ひかり1、河名 利幸、大谷 徹1、久保 周子1(1.千葉農林総研暖地) 露地ビワにおける果実の大きさを指標とした果樹カメムシ類の防除適期	B-06○鈴木 信也1、神保 宇嗣2、屋宜 禎央3、広渡 俊哉3(1.九大院・生資環・昆虫、2.国立科博・標本資料セ、3.九大院・農・昆虫) タテゲハマキガ族 <i>Schoenotenini</i> (チョウ目: ハマキガ科: ハマキガ亜科) の日本からの発見と <i>Homalermis</i> 属の分類学的再検討	C-06○藤森 颯太1、今村 剛士2、今村 彩花2(1.奈良県農業研究開発センター、2.奈良県中部農林振興事務所) イチゴ促成栽培でのヒラズハナアザミウマ防除におけるクメリスカブリダニの放飼方法の検討	D-06○岸 茂樹1、日下 石碧1、田中 義弘2、徳積 智也2、加茂 綱嗣1(1.農研機構、2.鹿児島県農総セ) スズメガ類によるニガウリの送粉効率				G-06○古閑 将斗1、越川 滋行1, 2(1.北大院・環境科学、2.北大・地環研) Is the wingless expression necessary to the wing color pattern formation of <i>Drosophila guttifera</i> ?	10:15

10:30	A-07○鹿子木 聡1(1. 鹿児島県農業開発総合センター) ミカンハダニ防除の高濃度少量散布化に向けた試み	B-07○川島 育海1、屋宜 禎央2、那須 義次3、広渡 俊哉2(1. 九大院・生資環・昆虫、2. 九大院・農・昆虫、3. 大工大・農・昆虫) イヌマキの葉に潜る <i>Makivora</i> 属(チョウ目: ハマキガ科)の日本からの1新種未記載種	C-07○河津 圭1、服部 夏実1(1. 協友アグリ株式会社) エコビタ液剤のナミハダニ、カンザワハダニ、コナガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、トマトハモグリバエ雌成虫の産卵に対する阻害効果	D-07○光畑 雅宏1、阿部 雄太1、広瀬 拓也1(1. アリスタライフサイエンス株式会社) 単為結果性品種ナスにおけるマルハナバチの利用効果(予報)	G-07○井上 巳新1、松尾 和典2(1. 九州大・共創、2. 九州大・比文) A taxonomic study of the genus <i>Gastrancistrus</i> (Hymenoptera: Pirenidae) parasitizing gall midges (Diptera: Cecidomyiidae) in Japan	10:30	
10:45	A-08○楠畑 勇祐1、大園 賢志郎1(1. 鹿児島県農業開発総合センター) ドローン散布によるトビイロウンカの防除は朝の散布で防除効果が向上する	B-08○屋宜 禎央1、川北 篤2、広渡 俊哉1(1. 九大院・農・昆虫、2. 東大・理・植物園) 小笠原諸島で発見された <i>Heliozela</i> 属の1未記載種(チョウ目: ツヤコガ科)	C-08○山口 友莉香1、田中 千晴1(1. 三重農研) 殺ダニ剤と気門封鎖剤との混用処理によるナミハダニに対する防除効果	D-08○宇佐見 享嗣1、2、河野 英也3、Austen Vic3、周戸 大季3、加藤 智紀3、山田 早人3、4、八木 亜樹子2、3、天池 一真1、3、Phung Quan2、3、藤本 和宏2、3、柳井 毅2、3、伊丹 健一郎2、3(1. 名大・高等研、2. 名大・WPI-ITbM、3. 名大院・理、4. 名大・IRCCS) ハスモンヨトウ幼虫を生体触媒に用いたナノカーボン材料の機能化	G-08○ KALLESHWARASWAMY C M1、SIMON HELLEMANS1、ESRA KAYMAKI、THOMAS BOURGUIGNON1(1. OIST) Revision of Indian termite taxonomy based on mitogenome data	10:45	
11:00	A-09○松本 匠哉1、川田 千瑛1、佃 晋太郎2、佐野 有季子3、中西 充1、山下 陽子3(1. 香川県農業試験場、2. 香川県農業経営課、3. 香川県東讃農業改良普及センター) ドローンによる青ネギの害虫防除効果の検討	B-09○河野 勝行1、2(1. 東北農業試験場、2. 農研機構野菜花き研) 捕獲消長と交雑試験の結果からのキハラゴマダラヒトリとアカハラゴマダラヒトリの間の種の識別に関する検討(チョウ目: ヒトリガ科)	C-09○上杉 龍士1、中島 哲男2、下田 武志1(1. 農研機構・東北研、2. JA全農耕資部) データ駆動型「IPM支援システム」によるIPM技術支援の可能性	D-09○坪田 拓也1、和泉 隆誠1、桑崎 誠剛1、上桑 明也1、横井 翔1、山本 公子1、瀬筒 秀樹1(1. 農業・食品産業技術総合研究機構) カイコ大造系統と日01号系統を利用した繭層歩合QTL解析	G-09○Kensei Kikuchi1、Nobuaki Mizumoto1、2(1. OIST、2. Auburn University) Comparative Study of Termites in Japan: Individual termite movements reflect foraging strategy evolution	11:00	
11:15	A-10○中島 優介1、徳丸 晋虫1(1. 京都府農林水産技術センター) ネギハモグリバエ幼虫のバイオタイプ間における薬剤殺虫効果の差	B-10○荒井 周1(1. 東京農大・昆虫) シマカラスヨトウとオオシマカラスヨトウの識別と北日本における分布の再検討(チョウ目: ヤガ科)				G-10○中島 聖朗1、高田 守1、松浦 健二1(1. 京都大学昆虫生態学研究室) Anti-pathogenic defense via antibiotic-producing <i>Streptomyces</i> inhabiting nest materials in the dampwood termite <i>Hodotermopsis</i>	11:15
昼休憩		昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	

2024年3月29日(金)午後 口頭発表

	A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白樺1)	D会場(白樺2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)	
	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	
13:30	A-11○坂本 洋典1、橋本 佳明2、浅井 ひろみ3、Hui-Min LIN4、杉山 隆史5、佐々木 智基5、本多 佳子5、中嶋 信美1、五箇 公一(1.国環研、2.兵庫県立大、3.PRD、4.Monsters' Agrotech、5.フマキラー) 要緊急対処特定外来生物ヒアリの国内侵入状況および定着阻止技術開発の最先端	B-11○江口 一馬1、中村 剛之1(1.弘前大・白神センター) 新たに確認されたホソキノコバエ科(ハエ目:キノコバエ上科)の日本未記録種と未記載種	C-10○大林 隆司1(1.都農総研) 露地ナス栽培における土着天敵誘引用紫色LEDの効果実証栽培試験	D-10○米津 聡浩1、2、東浦 祥光3、日本 典秀2、下八川 裕司1(1.高知県農業技術センター、2.京都大学大学院・農学研究所、3.山口県農林総合技術センター) ナスコナカイガラムシの捕食寄生者 <i>Anagrus californicus</i> の国内初記録とその発育期間	E-01高塚 裕太1、金澤 尚希1、太田 伸二1、大村 尚1(1.広島大院・統合生命) キタキチョウによるカタバミに対する誤産卵の化学的根拠	F-01○松井 悠樹1、2、中 秀司3、屋宜 禎史1、広渡 俊哉1(1.九州大院・農、2.鳥取大院・連農、3.鳥取大・農) シロモンノメイガとオガサワラシロモンノメイガの生態に関する知見	G-11○金藤 菜1、矢野 修一1(1.京大院・農・生態情報) Serious agricultural pests <i>Tetranychus</i> spider mites are also disliked by inferior competitors	13:30
13:45	A-12○安藤 緑樹1、原口 大1、池川 雄亮1、2(1.沖縄防技セ、2.琉球産経) 津野島におけるアリモドキゾウムシの再発生に対する防除の現状と課題	B-12○高橋 一男1(1.女神奈川大学) 発育環境がキイロショウジョウバエの翅干渉色パターンに与える影響	C-11○加藤 綾奈1、玉川 陽菜2、大井田 寛2(1.東京都農林総合研究センター、2.法政大学生命科学部) 東京都の露地ナス栽培に有効な天敵温存植物種の選定および紫色LEDによるヒメナカメムシ類の誘引	D-11○廣田 溪琉1、手塚 俊行1、伊藤 健司1(1.株式会社アグリ総研) マルハナバチ成虫粉末を用いたナミテントウ飼育試験	E-02○竹内 剛1、秋野 順治2、高崎 浩幸3(1.大阪公立大・農、2.京工織大・応生、3.日本蝶類学会) キアゲハのオスによる求愛行動を誘発する物質	F-02○和智 伸是1、松井 悠樹2(1.琉球大・熱生研、2.九州大院・農) 西表島のマングローブでのハラナガノメイガ類(鱗翅目:ツトガ科)の発生消長	G-12○松浦 輝尚1、宮竹 貴久1(1.岡山大院環境生命) Leg-biting male combat between giant mealworm decrease loser's fitness	13:45
14:00	A-13○三代 浩二1、相馬 幸博2、高橋 正和2、町田 真生2、川上 房男2、對馬 千佳子3(1.農研機構植防研、2.日本くん蒸技術協会、3.青森りんご研県南果樹部) 生果実に寄生するアウトショウジョウバエに対する2種くん蒸剤の効果	B-13○館 卓司1(1.九大院・此文・生物体系) 双翅目糸角亜目の後胸の比較形態	C-12○下田 武志1、釘宮 聡一1、吉村 英翔1、上杉 龍士1、田淵 研1(1.農研機構) ムギリビングマルチによる天敵行動制御: ヒラタアブ類の産卵嗜好性と害虫捕食能力の評価	D-12○水谷 信夫1、田中 彩友美1(1.農研機構・植防研) ハマグリミドリヒメコバチのトマキバガに対する捕食寄生行動	E-03佐々木 良輔1、室智大2、中 秀司3、木内 隆史2、勝間 進2、○藤井 毅1(1.摂南大農・応用昆虫、2.東大院農・昆虫遺伝、3.鳥取大農・害虫研) トラップDへの飛来侵入個体は誰なのか? アアノメイガ類を対象とした野外調査の結果より	F-03○藤井 告1、後藤 聖士郎2、草見 藤本1、屋宜 禎史1(1.九州大学大学院農学研究院、2.熊本県農業研究センター) クワコ繭およびカイコ繭トラップからのマダラトガリホソガの採集	G-13○Jinyeong Choi1、Cong Liu1、Pradeep Palanichamy1、Yumiko Masukagami1、Filip Husnik1(1.OIST, Okinawa) Parallel evolution of Bacteroidota into highly integrated endosymbionts of scale insects (Hemiptera: Coccoomorpha)	14:00
14:15	A-14○大川 純司1、竹田 遼1、那嶋 浩志1、加藤 良晃1、Hodges Desirée2、吉永 英樹3、樋口 聡志4(1.BASFジャパン株式会社、2.BASF Corporation、3.熊本県農業研究センター、4.熊本県農林水産部) 新規浸透移行性殺虫剤ジンプロピリダズ(アキサリオン®)の効果特性	B-14○桑畑 直幸1、金尾 太輔2(1.山形大・院・理工工、2.山形大・理・生物) 好白蟻性種ハネカクシにおける飛翔筋の喪失	C-13○田淵 研1、吉村 武志1(1.農研機構東北農研) おどりトラップによって捕獲されるヒラタアブ類の多発環境推定	D-13○梅崎 勇次郎1、藤井 毅1、石川 幸男1(1.摂南大学・農) タイリクヒメナカメムシの行動制御に利用可能な揮発性有機化合物の探索	E-04○戒能 洋一1、服部 誠1、田端 純2、松山 茂1(1.筑波大学・生命環境、2.農研機構) ハマキコウラコメバチの寄生成虫性フェロモンへの反応	F-04○小俣 良介1(1.埼玉県茶業研究所) ヒラタアトキリゴミムシ成虫の生活史とチャドクガ幼虫捕食量	G-14○野田 智仁1、2、森山 実2、深津 武馬1、2、3(1.東京大学大学院理学系研究科、2.国立研究開発法人産業技術総合研究所、3.筑波大学大学院 生命環境科学研究科) On the vertical transmission of the cockroach endosymbiont <i>Blattabacterium</i> via oviduct infection in the German cockroach <i>Blattella germanica</i>	14:15
14:30	A-15○井村 岳男1(1.奈良県農業研究開発センター) 奈良県におけるヤガ科抵抗性害虫3種の殺虫剤感受性	B-15○田作 勇人1、竹中 万紀子1、松井 晋1、丸山 宗利2(1.東海大・生物、2.九大博) シンジュウカラとコムクドリ の糞から得られた <i>Haploglossa</i> 属と <i>Hylota</i> 属(甲虫目:ハネカクシ科)の分類と生態	C-14○伊藤 祐氣1(1.岐阜県農技セ) 岐阜県の露地エダマメにおけるスワルスキーカブリダニを利用したタバコナジラミ対策	D-14高橋 孝太1、○藏 満 司夢1(1.筑波大学) 新規侵入昆虫ツマゾロクサヨトウはアワトウのスペシャリスト寄生蜂カマキリヤコムバチにとって evolutionary trap か?	E-05○釘宮 聡一1、池本 美都2、横井 智之2、平岩 将良3、前田 太郎3、手塚 俊行4(1.農研機構・植防研、2.筑波大・生命環境系、3.農研機構・農環研、4.農アグリ総研) 訪花昆虫に対するアニソール類の誘引性の検討	F-05○都野 展子1(1.金沢大学) アメリカシロヒトリの生活史変化と個体群消滅の長期観測	G-15○室 智大1、松井 悠樹2、中 秀司3、勝間 進1(1.東京大学、2.九州大学、3.鳥取大学) Intensive survey of <i>Wolbachia</i> infection across Japanese Pyraustinae and Spilomelinae moths	14:30
14:45	A-16○胸形 森1、金城 寛俊1、江口 浩喜1(1.MCCLS株式会社) イネカメムシの薬剤感受性に関する地域間比較	B-16○野村 周平1(1.国立科学博物館) 日本および周辺地域におけるナガアリヅカムシ上族(ハネカクシ科アリヅカムシ亜科)の分類学的解明と課題	C-15○徳丸 晋虫1、佐藤 孝2(1.京都府農林水産技術センター、2.秋田県立大学) 緑肥のすき込み処理が黒ダズエダマメのチョウ目害虫の発生に及ぼす影響	D-15○西 優輔1(1.岡山農研) 促成栽培イチゴにおける微小害虫と天敵の動態	E-06○若村 定男1、新垣 則雄2、大池 昌裕1、森山 太介1(1.京都先端科学大、2.沖縄県八重瀬町) 屋久島種子島以北のポウランは性的なだましと異なる送粉システムを持つ	F-06○菊原 勇作1(1.松山市役所) スマートフォン顕鏡で分かったサトウラギンヒョウモンとヤマウラギンヒョウモンの分布～愛媛県の事例～	G-16	14:45

15:00	A-17○尾山 智洋1、小出 良平2、塩谷 捺美1、大野 史佳1(1.石川農総研、2.奥能登農林総合事務所)フリージアに寄生するネダニ類を対象とした総合防除の検討	B-17○菊地 那樹1(1.北大院・農)日本産エンマムシ上科(昆虫綱鞘翅目)の分類学的再検討と雌交尾器形態に基づく系統構築	C-16○池之上 祐紀1、末永 博1(鹿兒島農総)アオゴムシ亜科の除去の有無および植生管理の有無が飼料用トウモロコシのツマジロクサトウ密度に及ぼす影響	D-16○小原 慎司1、一志 貴斗1、杉山 友香1、手塚 俊行1(1.株式会社)施設栽培イチゴにおけるクロヒョウタンカスミカメを用いたヒラズハナアザミウマの防除	E-07○三高 雄希1(1.テキサスA&M大学)地下性シロアリにおける集合フェロモンの種特異性	F-07○松村 正哉1、矢代 敏久1、真田 幸代1(1.農研機構・植防研)ナガウカノ1種 <i>Stenocranus pacificus</i> の寄主植物、分布、および発生推移	15:00
15:15	A-18上村 香葉子1、○伊丹 春衣1(1.福岡農林業総合試験場)脂肪酸グリセリドの混用によるアシナビル水和剤の殺ダニ効果の向上	B-18○大原 昌宏1、安基晶2(1.北海道大学・総合博物館、2.韓国・忠南大学)朝鮮半島産エンマムシ科甲虫の分類学的再検討と日本産との比較	C-17○岸本 英成1、屋良 佳緒利1、外山 晶敏1(1.農研機構植防研)省力化樹形栽培のリンゴにカブリダニ製剤を放飼したときのカブリダニ移動状況	D-17○上里 卓己1、安次富 厚2、與儀 喜代政2、秋田 愛子2(1.沖縄病害虫防技セ、2.沖縄農研セ)天敵を利用した促成栽培ピーマン等施設内外の雑草に発生するカイガラムシ類	E-08○安居 拓恵1、上地 奈美1、辻井(藤原)直1(1.農研機構・植防研)外来種ツヤハダゴマダラと在来種ゴマダラカミキリにおける雄の交尾相手の認識の違い:コンタクトフェロモンは機能しているのか	F-08○日室 千尋1、2、3、松山 隆志4、本間 淳1、2、3、池川 雄亮1、2、3、金城 聖良4、金城 美沙6、大石 毅5(1.沖縄県病害虫防除セ、2.琉球産経(株)、3.琉球大学農学部、4.沖縄県農研セ、5.沖縄県森林資源研セ、6.沖縄県農研セ名護)沖縄県におけるサツマイモ害虫3種(アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ、サツマイモメイガ)の野生寄主植物であるノアサガオにおける空間分布と利用様式	15:15
15:30	A-19○西野 眞由1、三森 理史1、大矢 武志1、山我 岳史1、加藤 雄太2、中島 哲男2(1.JA全農営技セ、2.JA全農耕種資材部)イチゴにおける薬剤散布ノズルの使用方法と葉面付着量の関係	B-19○井上 広光1(1.農研機構・植防研)日本産ムツボシキジラミ属(カメムシ目:キジラミ科)の分類学的検討	C-18○中村 傑1、高橋 佳大1、中村 淳1(1.福島県農業総合センター果樹研究所)福島県のモモ栽培におけるウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシの同時防除の検討	D-18○向井 環1、千嶋 宏平1、青木 由美2(1.富山県農林水産部農経)富山県におけるネギハモグリバエの土着寄生蜂相とその発生消長及び寄生率	E-09○西森 敬晃1、今野 浩太郎1(1.農研機構)クワ耐虫タンパク質 MLX56の毒性影響に対するカイコの非感受性について	F-09○谷山 克也1、田中 一裕2(1.株式会社グリラス、2.宮城学院女子大学)日長がハマスズの卵休眠と幼虫期間に与える影響	15:30
15:45	A-20○三森 理史1、西野 眞由1、大矢 武志1、下田 周平1、山我 岳史1、中島 哲男2、加藤 雄太2(1.JA全農営技セ、2.JA全農耕種資材部)イチゴへのスピロテトラマト水和剤灌注処理前の最終灌水の時間が及ぼす影響について	B-20○松村 洋子1、2、Wencke Krings1、3、Alexander Kovalev1、Stanislav N. Gorb1(1.Kiel University、2.北海道大学・昆虫体系学、3.Hamburg University)外傷性授精に使われるトコジラミ <i>Cimex lectularius</i> の把握器の挿入メカニクス	C-19○池田 亜紀1、衛藤 友紀2(1.佐賀果樹試(現佐賀農試セ)、2.佐賀果樹試)カンキツのナシマルカイガラムシに対する4月のプロフェジン水和剤とマシン油乳剤ならびにパラフィン系展着剤の混用散布が防除効果に及ぼす影響	D-19山田 千聖1、関口 実里2、山中 聡2、3、○日本 典秀1(1.京大院・農・生態情報、2.アリストライフサイエンス、3.現:クロップマネジメントラボ)スワルスキーカブリダニとリモニカスカブリダニの併用はアザミウマ類防除効果を高めるか?室内および圃場試験による考察	E-10遠藤 有希子1、田中 未来1、谷村 香織1、出崎 能丈1、上村 卓夫1、小澤 理香2、Maffei Massimo3、新屋 友規4、Galís Ivan4、○有村 源一郎1(1.東京理科大・先進工、2.京都大・生態研、3.トリノ大、4.岡山 大・IPSR)宿主と環境の変化において防御応答の調整を担うハダニエンリター・テトラニン	F-10○新垣 則雄1、砂川 博秋(1.八重瀬町)宮古島において異時的出現・交尾時間帯を持つ二つのリュウキュウウロコガネ個体群の分布状態	15:45
16:00	A-21○岡田 浩一(1.バイエルクロップサイエンス(株))モメント®のアブラムを用いた、キャベツ栽培における農業用無人車のモモアアブラムシ防除に対する適用性評価	B-21佐久 董1、○諸岡 歩希1(1.茨城大学)旧世界に産するアシナガバチ亜科のオス交尾器形態とその多様化	C-20○楠本 みさき1、本間 淳1、2、久岡 知輝1、2(1.沖縄県病害虫防除技術センター、2.琉球産経株式会社)誘殺板を用いた防除が石垣島のミカンコミバエ種群侵入個体群に与えた影響	D-20○矢野 栄二(1.奈良市)多食性捕食者タバコカスミカメによるタバココナジラミとミナミキアザミウマの同時防除は可能か?	E-11○鈴木 有穂1、石栗 陽一2、森 直樹1、吉永 直子1(1.京都大学大学院・農、2.青森りんご試)モモシンクイガ幼虫による食害でりんご果実に誘導される化合物の動態解析	F-11堀尾 奈々子1、中原 花菜1、○綱島 彩香1、2、糸山 享1(1.明治大・農、2.法政大・生命)静岡県におけるツヤアオカメムシに寄生するヤドリバエ <i>Cylinromyia petiolata</i> の世代経過の推定	16:00
16:15	A-22○西末 浩司1、杉浦 綾2、中野 亮3、渋谷 和樹3、福田 信二1、2(1.東京農工大学、2.農研機構農情研、3.農研機構植防研)時系列3次元(3D)点群のドローン図を用いた方の飛翔姿勢推定と簡易指標	B-22○菅原 有真1、井上 広光1、土 田 聡1、田端 純1、2(1.農研機構・植防研、2.筑波大学・生命環境)アザレアコナカイガラムシ性フェロモンに誘引される天敵寄生蜂の分類学的検討	C-21○高橋 佳大1、中村 傑1、中村 淳1(1.福島県農業総合センター果樹研究所)ツヤハダゴマダラカミキリのリンゴとトネノキに対する選好性の調査	D-21○末吉 昌宏1、福井 修二2(1.森林総合研究所、2.鳥根県地域振興部)国内外におけるトマトキバガの薬剤感受性動向	E-12○真田 幸代1、秋田 岳1(1.農研機構植防研)国内外におけるトマトキバガの薬剤感受性動向	F-12○野間 健吾1、西村 知良1(1.日大・生物資源)ジンガサハムシの化性と休眠に対する発生時期の影響	16:15
16:30	A-23○遠藤 梨々花1、堀 雅敏1、山本 和久2、藤 寛2(1.東北大院・農、2.阪大・レーザー研)青色レーザー光のアザミウマ、アブラムシに対する殺虫効果および殺虫技術としての有効性	B-23○廣瀬 勇輝1、藤江 隼平2(1.東京農大・昆虫、2.大阪自然史博)日本産 <i>Aspicarpus</i> 属(コマユバチ科:ヒメフナガラコマユバチ亜科)の分類学的再検討	C-22○有本 誠1、肥後 雄一1、2、北島 裕紀1、織田 はるか1、天野 貴之1、岩泉 連1、3(1.横浜植防、2.現在:横浜植防成田支所、3.現在:横浜市)トマトキバガとジャガイモガのマルチプレックスPCRによる識別法の開発	D-22○浦野 忠久1、砂村 栄力2、福森 郁哉3(1.森林総研関西支所、2.森林総合研究所、3.大和化学工業(株))クビアカツヤカミキリ穿入材に対するサビマダラオオホソカタムシ卵放飼試験	E-13○刑部 正博1(1.京都市)ナミハダニ染色体における殺ダニ剤抵抗性遺伝子の分布		16:30

16:45	A-24○齋藤 美樹1、佐藤 翠音1(1.道総研中央農試)青色LED照射によるダイズのマメシクイガ被害抑制効果	B-24○松浦 公平1、細石 真吾1、PHAM Hong Thai2(1.九州大学、2.ベトナム国立自然史博物館)日本産カレバアラリ類に近縁と思われるベトナム産の数種について(ハチ目アリ科)	C-23○本間 淳1、2、3(1.沖縄県病害虫防技社、2.琉球産経株式会社、3.琉大・農)ミトコンドリアハプロタイプ情報を用いたアリモドキゾウムシ再発生状況の把握と根絶の判定法	D-23○松田 直樹1、白井 雄1、高橋 桃世1、日本 典秀1、大門 高明1(1.京大・院農)DIPA-CRISPR法を用いたタイリクヒメハナカメシのゲノム編集技術の開発	E-14○渋谷 和樹1(1.農研機構植防研)フタスジヒメハムシの飼育法について			16:45
17:00		B-25○境 侑花1、佐々木 郁弥2、3、住田 歩夢3、平江 雅宏2、米田 洋斗4、東浦 祥光5、藤岡 龍生1、松尾 和典6(1.九大共創、2.農研機構、3.鳥取大院、4.(株)クボタ、5.山口農総セ、6.九大院比文)イネカメムシ(カメムシ目:カメムシ科)の設置卵塊からチャバネクロタマゴバチ(ハチ目:タマゴクロバチ科)を発見	C-24○北野 大輔1(1.滋賀農技センター)トラップ設置環境によるスクミリンゴガイ捕獲効率の差異	D-24○佐藤 大樹1(1.森林総合研究所)東京都八王子市内の小河川における昆虫疫病菌類の発生消長				17:00
17:15		B-26○松尾 和典1、Pan Liang-Yu2、Tung Gene-Sheng2(1.九大院比文、2.TFRRI)ユウカリ類にゴールを形成するヒメコバチ(ハチ目)の台湾への侵入	C-25○大野 豪1、細川 理恵2(1.沖縄農研セ・石垣支所、2.沖縄病害虫防除セ・八重山駐在)八重山地域の水田におけるカメムシ類の種構成	D-25○小野 雅弥1、前田 安信2、Li Xiaolan3、鶴田 慈音1、吉田 朱美2、菊地 泰生1(1.東大院・新領域、2.宮崎大・医、3.浙江大・農)線虫注入後の鱗翅目昆虫におけるトランスクリプトーム解析			17:15	
17:30		B-27○阿部 芳久1、井手 竜也2、邸 亜嬌3(1.九大院・比文、2.科博・動物、3.九大院・地球社会)一部の個体が長期休眠をする労働寄生蜂(タマゴバチ科)の未記載種を首都圏で発見	C-26○八塚 拓1、西條 圭祐1、小林 則夫1(1.茨城農総セ農研)茨城県のイネカメムシ成虫に対する各種薬剤の残効性	D-26○Kim Jae Su1、Lee Mi Rong1、Kim Sihyeon2、Park Taehyun2(1.Jeonbuk National University, 2.FarmHannong Inc.)Developmental strategy for Beauveria bassiana ERL836 GR and WP for thrips management			17:30	
17:45		B-28○Eko Andrianto1、Yasushi Sato2、Jessica Adelaide Kapojos2、Norihide Hinomoto1(1.GSA, Kyoto University, 2.NIFTS, NARO)Rediscovery of <i>Amitus hesperidum variipes</i> (Hymenoptera: Platygasteridae) in Japan after more than 90 years of disappearance					17:45	

2024年3月30日(土)午前 口頭発表

	A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白樺1)	D会場(白樺2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)	
9:00	A-25○広岡 佑太1、日野 聖也1、中野 昭雄1(1.徳島農総技センター) ネット被覆によるクビアカツヤカミキリの成虫拡散阻止効果の検証	B-29○長 泰行1(1.千葉大院・応用昆虫) 托卵するミヤコバクリダニは寄主卵の捕食に対して産卵嗜好性を変える	C-27○石川 博司1、濱頭 葵2、石井 直樹1(1.愛知県農業総合試験場) 2.海部農林水産事務所) 愛知県内のイネカメムシに対するエチプロール水和剤の感受性低下について	D-27○山我 岳史1、星 信幸2、青山 良一3、森 亮太3(1.JA全農宮城支社) 2.JA全農耕種総合対策部、3.JA全農耕種資材部) 宮城県の子実とうもろこし栽培におけるアワノメイガに対する殺虫剤防除の効果	E-15○白藤 梨可1、佐藤 成子1、鈴木 宏志1(1.帯畜大・原虫研) 原虫感染マダニにおける卵黄タンパク質前駆体の役割		G-16○磯村 晃良1、細井 栄嗣2(1.山口大・農、2.山口大・大学院創成科学研究科) ライトトラップによるニホンヤマネ <i>Girulus japonicus</i> の生息地における昆虫相調査と食物としての利用可能性	9:00
9:15	A-26○衣浦 晴生1、高梨 琢磨2、中島 太郎3、松島 一司4(1.森林総合研究所、2.森林総合研究所東北支所、3.足利市、4.足利市役所) 野外におけるクビアカツヤカミキリ成虫の振動による行動制御	B-30○鈴木 誠治1、八尾 泉1(1.北大院・農) ヨツボシモンシデムシのオスによる子育ては托卵を防げるか?	C-28○平江 雅宏1、佐々木 郁弥1(1.農研機構 植防研) イネ科植物に対するイネカメムシの寄主適合性	D-28○窪田 聖一1、中村 篤史2、小川 翔也2、浜田 拓弥1(1.愛媛農水研、2.愛媛防除所) 愛媛県におけるトマトキバガの発生状況と薬剤感受性	E-16○後藤 哲雄1、Beard J. J.2、Beaulieu F.3、Knee W.3(1.流通経済大学、2. Queensland Museum、3. Agriculture & Agri-Food Canada) コウノアケハダニ <i>Eotetranychus asiaticus</i> の分類学的検討		G-17○池上 真木彦1(1.国立環境研究所琵琶湖分室) 外来アリと在来アリが利用する気候ニッチと土地利用ニッチの比較	9:15
9:30	A-27○児玉 洋1、中野 元文1、林 修司1、○犬飼 佳代1、高城 圭子1(1.日本農業株式会社) クビアカツヤカミキリに対するメタフルミゾン(アケセル®)の効果特性	B-31○伊藤 元春1、○松尾 隆嗣1(1.東大・農) 単婚性の進化におけるオス由来物質の役割	C-29○田中 千晴1、平江 雅宏2(1.三重県農業研究所、2.農研機構・植防研) イネカメムシ雌成虫の羽化後日数と卵巣の発達程度との関係	D-29○須藤 正彬1(1.農研機構・植防研) 物体検出モデルによる茶園のチャノホソガ幼虫の齢構成推定	E-17○元吉 真衣1、塩田 あづさ1、畑 俊男1(1.千葉県農林総合研究センター) 千葉県におけるアブラナ科寄生性シストセンチュウ <i>Heterodera cruciferae</i> の発生		G-18○岸本 圭子1、綿引 大祐2、豊田 光世3(1.龍谷大・先端理工、2.東京農大・農、3.新潟大・佐渡支) 棚田耕作放棄地における捕食性節足動物の生息状況を考慮した管理について	9:30
9:45	A-28○上地 奈美1、高梨 琢磨2(1.農研機構・植防研、2.森林総合・東北支所) クサギカメムシ用トラップ Shido Trapを用いた茨城県と岩手県におけるカメムシの捕獲状況	B-32○久保田 耕平1、張 勝男1、2(1.東京大学・農、2.安徽農業大学) ルリクワガタ属の産卵痕の意義とは? -産卵行動の観察と産卵痕の分布-	C-30○住田 歩夢1、竹松 葉子2、東浦 祥光3(1.鳥取大学大学院連合農学研究所、2.山口大学創成科学研究科、3.山口県農林総合技術センター) 冷凍卵設置調査によるイネカメムシの卵寄生蜂の探索	D-30○佐々木 郁弥1、柴 卓也1、松倉 啓一郎1(1.農研機構 植物防疫研究部門 病害虫防除支援技術グループ) 飼育に依存しない発育速度パラメータの推定手法の検討	E-18○井上 貴裕1、2、國貞 葉菜子1、2、水谷 恵子1、吉田 知生1、稲垣 歩3、上野 崇寿3、小田 憲司1、川田 逸人2、辻 尚利2、古川 集士2、八田 岳士2(1.生物科学安全研究所、2.北里大院・医、3.大分工業高等専門学校) ワクモの効率的な駆除に向けた誘引効果試験		G-19○本林 隆1、馬場 海帆1、日鷹 一雅2(1.東京農工大・農、2.愛媛大学院・農) 種感受性分布(SSD)を活用した水田の水生昆虫群集に対する育苗箱処理剤の生態リスク評価Ⅱ-新規ワカ防除トリフルメゾリウムを中心に-	9:45
10:00	A-29○高梨 琢磨1、Avosani Sabina1、2、小林 知里1、3、向井 裕美1(1.森林総合研究所、2.フリップル大、3.東北大) 振動によるキノコバエ類の行動制御とシタケ栽培の害虫防除への応用	B-33○前野 浩太郎1(1.国際農研) サバクトビバッタにおける密度依存的な繁殖システム	C-31○世戸口 貴宏1、岩 卓也1(1.農研機構植物防疫研究部門) 乾燥種子を使用したイネカメムシの累代飼育法	D-31○山崎 敦夫1、岩崎 杉紀1(1.防衛大学校) ハイパースペクトルセンサを用いたバッタの検出:室内実験による検証	E-19○細谷 忠嗣1(1.日本大学生物資源科学部) 動物園のニスコーティングされた糞標本を食害したナガヒョウホンシの事例		G-20○町田 禎之1、虻川 巧生2、清田 浩二3(1.(株)建設環境研究所、2.北上川下流河川事務所、3.宮城教育大学) 東日本大震災後の北上川水系におけるヒヌマイトトンボの保全と河口の昆虫相の変化	10:00
10:15	A-30○大江 高穂1、関根 崇行1、駒形 泰之1、小野寺 隆一2、阿部 翔太2、高梨 琢磨3(1.宮城県農業・園芸総合研究所、2.東北特殊鋼(株)、3.森林総研) 振動とタバコカスミカメを組み合わせたトマトのオンシツコナジラミ密度抑制-現地生産施設と試験圃場における実証-	B-34○光永 貴之1、村上 理都子1、長坂 幸吉1(1.農研機構・植防研) ナケルクロアブラバチは雌雄産み分けをどのような情報から判断しているのか?	C-32○本田 善之1、東浦 祥光1(1.山口県農林総合技術センター) 水面散布することでトビイロウナカ防除に有効な油剤の開発1	D-32○岩橋 祐太1、八瀬 順也1(1.兵庫県農林総合センター) わかってきたイネカメムシの行動生態			G-21○矢崎 英盛1、沖田 耕一2(1.東京都立大学・動物生態、2.聖光学院中学校高等学校) 昆虫採集体験から始める生態学入門-中高生に向けたネイチャーガイドと科学コミュニケーションの融合の試み-	10:15
10:30	A-31○大矢 武志1、阿部 弘文2、金満 伸央3、廣橋 寿祥2、安部 洋4(1.JA全農、2.日本ワイドクロス、3.共立電照、4.理研BRC) 赤色防虫ネットを被覆・育苗したトマト苗はアザミウマ類に対する密度抑制効果を示す	B-35○西谷 光平1、三田 敏治2(1.九大院・生農環・昆虫、2.九大院・農・昆虫) 捕食寄生者が寄主に運ばれるのは攪乱環境への適応か?:飛べない寄生蜂クロハラカマバチの繁殖関連形質に寄主の齢期と性別が及ぼす影響	C-33○宮田 穂波1、高橋 淳1(1.埼玉県茶業研究所) 茶園におけるナシシロガカイガラムシの発生消長及び薬剤感受性の検討	D-33○紙谷 聡志1(1.九州大院・農) 粘着トラップに捕殺されたサシバエの機械学習を用いたモニタリング				10:30

10:45	A-32○岩本 哲弥1、本 田 善之1(1.山口県農林 総合技術センター) おとり植物と忌避剤、気 門封鎖剤を組み合わせ たイチゴのアザミウマ類 防除体系について	B-36○田中 幸一1、松 尾 和典2、村田 浩平 3(1.つくば市、2.九大院 比文、3.東海大農) 外来昆虫ブタクサハム シの寄生蜂を発見	C-34○山本 敦司1、8、 土井 誠2、8、井口 雅裕 3、8、野田 隆志4、8、山 我 岳史5、8、刑部 正博 6、8、田中 千晴7、8(1. 日本曹達(株)、2.静岡 農林技研、3.和歌山か き・もも研、4.日植防、 5.JA全農、6.京都市、7. 三重農研、8.殺虫剤抵 抗性対策TF) 飛来性害虫トビイロウン カの殺虫剤抵抗性リスク 評価					10:45
11:00	A-33○宮下 裕司1、梶 原 千郷1、松岡 基憲 1(1.愛媛県農林水産研 究所果樹研究センター) ミカンキイロアザミウマ の薬剤感受性検定手法 の検討	B-37○岸本 年郎1(1. ふじのくにミュージアム) 小笠原諸島における外 来生物が在来昆虫に与 える影響と対策の現状	C-35○山本 優一1、原 口 岳1、城塚 可奈子 1(1.大阪環水研) クビアカツヤカミキリ の侵入・定着リスクが高い 地点の特徴					11:00
11:15	A-34○東田 景太1、武 田 千秋1、森 光太郎1、 佐野 真喜子1(1.石原産 業株式会社) 殺虫剤シクラニプロール に関する研究(第11 報) -カンキツのアザミウマ 類に対する果実被害抑 制効果-	B-38○徳田 誠1(1.佐 賀大・農) 伊豆諸島北部および伊 豆半島のスタジイタマバ エ:10年間の密度変化	C-36○久岡 知輝1、2、 本間 淳1、2、3(1.琉球産 経(株)、2.沖縄県防技 セ、3.琉大・農) ミカンコミバエ種群は個 体群によって配偶相手 を選び好む					11:15
11:30			C-37本間 淳1、2、3、○ 池川 雄亮1、2、3、日室 千尋1、2、3(1.琉球産経 株、2.沖縄防技セ、3.琉 大・農) 地上出現前交尾がイモ ゾウムシの不妊虫放飼 の防除効果に与える影 響					11:30

2024年3月31日(日)午前 口頭発表

	A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白樺1)	D会場(白樺2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)	
9:00	A-35○高田 悠太1、西塔 心路3、大坪 和香子1、布施 直之2、市之瀬 敏晴3、4、谷本 拓3、堀 雅敏1(1.東北大院・農、2.東北大院・薬、3.東北大院・生命、4.東北大・学際科学フロンティア研究所) 青色光毒性を用いた人為選抜が駆動した <i>Drosophila melanogaster</i> における "Acetobacter"共生菌-脂質代謝に関する表現型"の進化	B-39○富田 尚道1(1.元 群馬県公立中学教諭) オペリスク姿勢postureは放熱ポーズpose—サーモグラフィ—観察による検証—	C-38○藤岡 春菜1、佐賀 達矢2(1.岡山大学・環境生命、2.神戸大学・院人間発達環境) オオスズメバチの幼虫は"鳴き"続ける	D-34○松倉 啓一郎1、世戸口 貴宏1(1.農研機構・植物防疫研究部門) トマトキバガの低温耐性:室内試験での検討			G-22○竹中 將起1、岡本 聖矢2、東城 幸治1(1.信州大・理、2.土木研・自然共生研究センター) 同一河川に共存するモンカゲロウ属(カゲロウ目)2種の系統進化—近縁2種間における種分化と交雑の歴史—	9:00
9:15	A-36○大鷲 友多1、南斗真2、菊地 泰生3、4、吉田 朱美3、中野 亮平2、5、陰山 大輔1、安達 鉄矢2(1.農研機構・生物研、2.宮崎大・農、3.宮崎大・FS、4.東京大院・創成、5.静岡農林技研) 捕食性天敵タバコカスミカメの細菌叢解析	B-40○宮田 恵佑1、村井 保1(1.(株)アグリコック研究所) カドマルカツオブシムシ <i>Dermestes haemorrhoidalis</i> Küsterの発育と産卵	C-39○小坂 肇1、佐山 勝彦1、神崎 菜摘1、牧野 俊一1(1.森林総合研 阪大院・理) スズメバチ女王から新たに発見された寄生バチの生態と分類	D-35○宇賀神 篤1、宮下 伶1、2、尾崎 克久1(1.JT生命誌研究館、2.阪大院・理) ミカン科食アゲハ幼虫におけるフラノクマリン応答性cytochrome P450遺伝子の機能解析			G-23○倉西 良一(1.神奈川工科大学) 東北地方の酸性河川に出現するナガトビケラの種分化仮説	9:15
9:30	A-37○西出 雄大1、汪 垂運2、鈴木 隆太郎2、森 浩禎3、柿澤 茂行2、深津 武馬2(1.農研機構、2.産業技術総合研究所、3.広州農業技術院) ASKA barcode libraryを用いたカメムシに共生しやすい大腸菌の探索	B-41○曾根 蒼太1、宮竹 貴久1(1.岡山大院・環境生命) コクヌストモドキを用いた研究室系統と野外系統の飛翔行動の比較	C-40○西村 正和1、久保 良平1、小野 正人1、2(1.玉川大・ミツバチ科学、2.玉川大・院・農) チャイロスズメバチ (<i>Vespa dybowskii</i>)の警戒フェロモン成分の同定	D-36○長峯 啓佑1、粥川 琢巳1、田中 良明1(1.農研機構・生物研) シロイチモジトウヨウから発見されたチョウ目特異的な新規Asteroidファミリ—遺伝子			G-24○中村 涼1、池田 敏士1、久保田 耕平1(1.東大院・農) 日本列島における <i>Asiopoecilabus</i> 属(甲虫目ジョウカイイボ科)の種多様化プロセス	9:30
9:45	A-38○陰山 大輔1、西出 雄大1、渡部 賢司1、畠山 正統1、レノゾ フランソワ1(1.農研機構・生物研) 外来ボルバキア起因の母性効果によって引き起こされる胚発生阻害	B-42○上野 尚久1、高橋 佑磨1(1.千葉大・院・農山正統)、レノゾ フランソワ1 キイロショウジョウバエの個体群動態において遺伝的多様性が果たす機能	C-41○住宮 義隆1、佐々木 哲彦2(1.玉川大院・農、2.玉川大・学術) ニホンミツバチのオオスズメバチに対する防御行動として塗布される物質について	D-37○中里 優吾1、大瀧 文二1(1.琉球大学) チョウの翅組織におけるH2O2の挙動と色模様との関係			G-25○星崎 杉彦1、日下部 良康2(1.東大・農、2.横浜市) 形態測定による、セダカコブヤハズカミキリ地理的変異の再検討	9:45
10:00	A-39小西 楓1、高松 巧1、伊藤 克彦1、新井 大2、○井上 真紀1(1.農工大・農、2.農研機構) 細胞質不融合を引き起こすボルバキアに対する宿主応答	B-43○宮崎 洋祐1、田中 一裕2、渡 康彦3(1.芦屋大・経営教育、2.宮城学院女子大・一般教育、3.芦屋大・臨床教育) 異なる温度差の温度サイクルに対するタマネギバエの羽化の同調:温度位相反応曲線を用いた説明	C-42○原野 健一1、小野 正人1、佐々木 哲彦1(1.玉川大学ミツバチ科学研究センター) ミツバチの門番がもつ燃料と対スズメバチ防衛戦略の関係:二種間比較	D-38○沼沢 良太1、大橋 ひろ乃1、櫻井 健志1(1.東農大・農) 光刺激に対するタイリクヒメハナカメムシの応答行動の解析			G-26○三田 敏治1(1.九大院・農・昆虫) 日本のクロマダラカマバチは2系統に分けられる(ハチ目カマバチ科)	10:00
10:15	A-40○森山 実1、深津 武馬1(1.産総研) カメムシ科昆虫における後脚を用いた共生細菌の新奇な垂直伝行動	B-44○香取 郁夫1、細川 雄平1、那 健太1、坂本 貴海1(1.近畿大学) ある種のチョウの幼虫に見られる頭部突起の適応的意義 ~フタオチョウ幼虫の硬い頭部突起の役割に関する「天敵からの防御」仮説の検証2~	C-43森上 絢加1、○佐々木 謙1(1.玉川大・農) クロマルハナバチの脳の特異性:ドーパミン濃度のカーブ差とその役割	D-39○飯田 菜生1、大橋 ひろ乃1、田中 啓介2、櫻井 健志1(1.東農大・農、2.東情大・総情) タイリクヒメハナカメムシにおける化学感覚受容関連遺伝子の探索			G-27○細石 真吾1、Rosli Hashim2、Heng Sokh3(1.九大熱研センター、2.マラヤ大学、3.カンボジア林野庁) アリ植物共生の東南アジア産シリアゲアリ類にみられる系統多様化と形態進化	10:15
10:30	A-41○汪 垂運1、金井 雄樹2、津留 三良2、古賀 隆一1、古澤 力2、深津 武馬1(1.産総研、2.東大院理) IS増幅進化実験によるラボ大腸菌から高度な共生細菌への進化	B-45○仁平 岳登1、鈴木 紀之1(1.高知大学) 捕食回避戦略の異なるアゲハチョウ類幼虫における微生物環境選択の違い	C-44○秋野 順治1、島海 岳志1(1.京都工芸繊維大学) 大量動員を行うトビロケアリの斥候が巣仲間へ伝える情報を探る	D-40○吉田 一貴1、矢代 敏久1(1.農研機構 植物防疫研究部門) リアルタイムPCRを利用したセジロウカの雌雄判別法			G-28○金尾 太輔1(1.山形大・理) 好白蟻性ハネカクシの進化とシロアリにおける社会性の複雑化	10:30

2024年3月31日(日)午後 口頭発表

	A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白樺1)	D会場(白樺2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)	
	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	
13:30		B-48○浴野 泰甫1、新屋 良治1(1.明治大学) マツノサイゼンチュウは触覚によって摂食行動を開始・制御する	C-47○土田 浩治1、佐山 勝彦2、諸岡 歩希3(1.岐阜大学, 2.森林総合研究所, 3.茨城大学) オセアニアに分布拡大したフタモンアシナガバチの生態的特性	D-44Lauren Gill1、Katie Marshall1、○宇高 寛子2(1.Univ. of British Columbia, 2.京都大学・院理) 陸生軟体動物チャコウラナメクジにおける凍結耐性メカニズム			G-32○上樂 明也1、桑崎 誠剛1、富澤 優衣2、相澤 美里3、園田 昌司2(1.農研機構・生物機能, 2.宇都宮大・農, 3.香川県・防除所) 国内の産雌型ネギアザミウマ系統におけるピレスロイド剤抵抗性原因遺伝子変異 T929L/K1774Nの由来推定	13:30
13:45		B-49○松原 慧1(1.道総研・道南農試) ヒメトビウカ幼虫の落下後行動 —うまく着水して天敵から逃れられるか	C-48○佐藤 正都1、宮崎 亮1, 2(1.産総研・生物プロセス, 2.産総研・OIL) 腸内細菌保持のコスト—セイヨウミツバチ腸内細菌は宿主の生存率を低下させる	D-45○萩原 翠唯那1、相垣 敏郎1、坂井 貴臣1、朝野 維起1(1.都立大・院理) キチン結合性をもつ弾性タンパク質: resilinの機能と架橋メカニズムの解析			G-33○成 書絃1、姜 時友2(1.神奈川保健福祉大, 2.山形大院) キロシヨウジョウバエ 個体別活動測定システムを用いた雌性先熟表現型の解析	13:45
14:00		B-50○吉田 達也1、長泰行1(1.千葉大園芸) 捕食者の生理状態がナミハダニの忌避反応に及ぼす影響	C-49○大河原 恭祐1、大籠 幸治2(1.金沢大学, 2.日本製紙クレシア) ルリアリのカートンへの破損行動 —なぜ紙を齧るのか?—	D-46○笠原 駿輔1、榎 来悟1、萩原 佳輔1、木村 将大2、加藤 学3、景山 心悟3、生田 智樹3、松野 研4、大野 修1(1.工学院大学先進工, 2.東京工科大学応生, 3.(株)山田養蜂場, 4.安田女子大学薬) スズメバチに含まれるキチナーゼ阻害剤の単離、合成と機能解明			G-34○千頭 康彦1、大津 樹2、道羅 英夫1, 3、後藤 寛貴1, 2(1.静岡大・理, 2.静岡大・創科技院, 3.静岡大・グリーン研) ハマバハサミムシ <i>Anisolabis maritima</i> から見出された性決定遺伝子 <i>doublesex</i> のエキソ重複	14:00
14:15		B-51○矢野 修一1(1.京都大学大学院 農学研究科 生態情報開発学分野) アリの足跡はカブリダニによるハダニ制御を妨げないようだ	C-50○松浦 健二1、田崎 英祐2、三高 雄希4、高橋 豊3、Waliullah A.S.M. 3、Tamannaa Zinat3、坂本 匠3、Islam Ariful 3、Kamiya Masaki 3、佐藤 智仁3、荒牧 修平3、菊島 健児3、堀川 誠5、Nakamura Katsumasa 3、華表 友暁3、高田 守1、瀨藤 光利3(1.京都大学大学院農学研究科, 2.新潟大学理学部, 3.浜松医科大学, 4.Texas A&M Univ., 5.広島大学) ロイヤルフードの世界初解明: シロアリの王と女王は何を食べているのか?	D-47Achmad Gazali1、小林 功1、新津 修平2、○杉本 貴史1(1.農研機構・生物機能, 2.東京都立大・理学研究科) チョウ目昆虫で遺伝的メスを検出するW染色体特異的DNAマーカー探索の試み			G-35○山本 大介1、水島 大貴1、加藤 大智1(1.自治医大・医・医動物学) ハマダラカにおいて <i>doublesex</i> 遺伝子の雄型産物は唾液腺の発達を抑制する	14:15
14:30		B-52○橋本 佳明1、遠藤 知二2、山崎 健史1、兵藤 不二夫3、市岡 孝朗4、MELENG Paulus5、GUMAL Melvin6(1.兵庫県立大学, 2.神戸女学院大学, 3.岡山大学, 4.京都大学, 5.Forest Department Sarawak, 6.Sarawak Forestry Corporation) アリグモは、擬態モデルのアリ種に反応して行動を変える					G-36○大出 高弘1(1.京大院・農) 高効率遺伝子組換えを利用したフタホシオロギ生体内におけるエンハンサーの時空間的活性の調査	14:30

14:45	B-53○川越 葉澄1、市岡 孝朗1、Meleng Paulus2、Gumal Melvin3、4、清水 加耶5(1.京都大学、2.サラワク州森林局、3.サラワク州森林公社、4.スウィンバーン工科大学、5.島根大学) アリ植物 <i>Macaranga bancana</i> の共生アリにおける葉上の個体数に対する宿主植物の大きさの影響						14:45
15:00	B-54○米谷 衣代1(1.近畿大学・農学部) 植物上に形成される節足動物の群集集合を環境DNAを用いて観察する						15:00
15:15	B-55○天野 史子1、森信之介2、光畑 雅宏3、横井 智之1(1.筑波大・保全生態、2.慶應義塾大学・理工、3.アリストライフサイエンス株式会社) リンゴ園の送粉サービスに関わるマメコバチの花資源利用実態の解明						15:15
15:30	B-56○古川 あずさ1、井手 洋一1(1.佐賀農試セ) キャベツにミミズ類が侵入する環境要因の探索						15:30
15:45	B-57○城田 安幸1、佐藤 悠平1、城田 創1(1.医果同源りんご機能研) 有機認証を得たりんご園に於ける動物たち、りんごを食べるがみかんは食べない						15:45